

きらひはしの事

- 一せんごし
- 一そでごし
- 一もろおとし
- 一さいのさい
- 一ゑるなまち
- 一よこばし
- 一てうぶくのはし
- 一まどひばし
- 一たてばし

右是九ツをくふべからず

一はしのをきどころは、上はひぎのふしのうへ、中はひぎの中程、下はいは其下也、いかにも身をちゝめてはしをせばくもつがほんなり、是三しきのをしへやうたり、

〔禮容筆粹七〕食事之時病之事

ものをくふ時、平生を嗜候事第一也、物毎かくのごとくなれども、一しほ食事は一日に二三度は非にかげざる物なれば、常々に禮法の趣を聞て心を用る時は、恥辱をとらぬもの也、第一貴人の御前にて大口にむざと喰まじき也、口一はいほうばりたる時、不計人言を申かけたる時見苦し、扱上座をもうかゝはず、前後をもかへりみず、情を食味にうつしてくふを、大喰とて大きにいましめ候なり、つゝ、ゑむべし、菜を下に置ながら箸を長く取のべ、あへ物を一口喰、煮ものを一口くふをう。つり。箸。とていましめたり、たとへ取上ては喰とも、菜はさい計あれこれをくふを菜。ご。し。とてきらふ事也、焼物をくはんか、又さし身をくわんかと、うろたへたる體、さてく見苦し、唯飲食の時は、心さはがしかるまじく候、加様に手のなまるをなまりばしとて嫌ふ也、食にても汁にても、通ひより請取、膳におかずして直にくふをう。け。ぐ。ひ。といへり、是又嫌ひ候也、膳のむかふの物を、はしをのばしてはさむを膳。ご。し。とて嫌ふ也、此外一々にあげがたし、

〔躰方明記四〕一菜を食べき事、食を給汁を吸候て、扱一色づ、喰候なり、餘多の菜へ一度に箸を付べからず候、う。つり。箸。とて大に忌なり、